



Interview

仕事人インタビュー

# 「働く」とは 人と人の心を つなげていくこと

俳優  
土屋太鳳さん



——2年連続で「理想の後輩ランキング」1位を獲得されました。仕事場で意識していることは？

二つ心がけていることがあります。一つめは、大きな声であいさつをすることです。デビュー映画で共演した香川照之さんに「自分が不利な時ほど大きな声であいさつしなさい」とアドバイスをいただき、ずっと実行しています。ただあいさつをするだけでなく、相手にしっかりと伝わることに

が大事だと思っています。

もう一つは、撮影現場でいただいた言葉やアドバイスを忘れずに次に生かせるよう、台本の裏などに書き込むようにしています。台本を見返すと、「こんなアドバイスをいただいたんだ」とか「こんな気があつたんだな」と、その時の気持ちを思い出すこともできます。

——先輩との関わりの中で印象に残っていることは？朝の連続テレビ小説「ま

に振る舞って見せるうちに、本当に元気になっていくのだと思うんです。

つらい時に、少し無理をすることを恐れない。言い換えれば、自分の弱さを自分で認めることなのかもしれません。その経験をした人は、他人がつらい時に、共感したり、アドバイスしたりできますよね。そういう人と話すことも、つらさから抜け出す一歩になるかもしれません。

母に「あなたが言う悩みは、自分の思い通りにならないことが続いたという不満じゃないの」と言われたことがあります。自分から何かに挑戦し、試行錯誤を重ねて、それでもうまくいかなかった時に、はじめて感じるのが「悩み」なのだ。それからは、どんな時

も、まずは自分ができるところを試してみることにしています。

——誰かを応援する「役を演じることが多いです」。

映画「青空エール」で吹奏楽部の主人公を演じる時に、どんな気持ちで応援しているのかを知りたくて、実際に吹奏楽部で大学野球を応援していた方にお話を伺ったことがあります。そうしたら、「届いたらいいな」という思いで吹いていました」と。  
「応援」と聞くと、「届け！」や「がんばれ！」という言葉が浮かびますが、そうではないとハツとしました。強制的なプレッシャーになつてしまうのではなく、受け取る自由があつて、その思いに励まされる。応援は、応援する側が一方的に

## 自分ができるところを まずは試してみることを

するものではなく、応援される側とのコミュニケーションなんだと改めて気づきました。

作品を演じることも同じだと思えます。伝えたいことが、観てくださる方々に「届いたらいいな」「少しでも元気や勇気を出してもらえたらいいな」と。そんな気持ちで、演じています。その思いを受け取って、心に留めてくださる方がいるのは本当に幸せなことだと感じます。それが、私の知らないどこかで、また別の人へとつながっていくかもしれない。「働く」とは、そうやって、人と人との心をつなげていくことなのかなと思います。

——これから社会人となる読者の若者たちに向けてメッセージをお願いします。すごく大変な環境で、つらいことがたくさんある人もいると思います。でも、



土屋太鳳(つちや・たお)

1995年生まれ、東京都出身。O型。2008年、映画『トウキョウソナタ』でデビュー。15年、NHK連続テレビ小説『まれ』でヒロインを演じた。以降、映画『青空エール』、『兄に愛されすぎて困ってます』など様々な作品で活躍。18年7月期ドラマ『チア☆ダン』(TBS系)で主人公の藤谷わかば役を演じる。

土屋太鳳さん出演『チア☆ダン』

7月13日(金)22時スタート!(TBS系・毎週金曜22時~)



映画『チア☆ダン〜女子高生がチアダンスで全米制覇しちゃったホントの話〜』の9年後を描いたオリジナルストーリー。幼い頃にチアダンス部「JETS」の演技に憧れた主人公・藤谷わかばが、仲間たちや教師と共に全米制覇という「できっこない夢」を追いかける。



「一人じゃないよ」ということを伝えたいです。

私も、自分より才能があると感じる人がたくさんいますし、うまくいかないこともあります。でも、迷いやあがきがあるのは生きていく証だとも思っています。同じ時代で人生を歩んでいるみなさんと、励まし合いながら、一緒に頑張っていきたい。そう思っています。